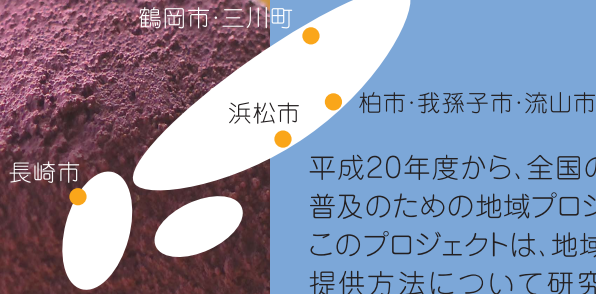


がんの痛みは止められます。



平成20年度から、全国の4つの地域において、「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトは、地域の方々への効果的な緩和ケアの提供方法について研究するものです。その成果は、今後の政策立案や診療ガイドラインなどに反映され、将来的には全国の各地域で緩和ケアの普及に生かされることが期待されます。

このプロジェクトの目標

- 患者さんの望む場所で緩和ケアが受けられるようにします
- 地域で緩和ケアについてのご相談ができるようにします
- 地域の方々に緩和ケアについての知識をお伝えします
- 緩和ケアを提供するための連携体制を整備します
- 緩和ケアの専門家による診療・ケアの提供を進めます

がんの痛みの治療とは

がんの痛みの治療は、世界保健機関（WHO）が推奨する方法が世界中で行われています。この治療法の基本は、痛みの強さに合わせて鎮痛薬の種類を決めるというもので、「WHO方式がん疼痛治療法」と呼ばれています。この方法では、痛いときにだけ薬を使うのではなく、痛みがない状態を維持するように定期的に鎮痛薬を使い、痛みのない日常生活を実現することが目標とされています。

医療用麻薬について誤解していませんか？

がんの痛みの治療には「医療用麻薬」を使うことがあります。医療用麻薬に対して「中毒になる」「命が縮む」「だんだん効かなくなる」「最後の手段」と誤解している方は少なくないようです。しかし、全世界における20年以上の経験から、がんの痛みには、モルヒネなどの医療用麻薬が有効であり、誤解されているような副作用は認められないことが明らかになっています。医療用麻薬は、痛みの強さに応じて使われる“鎮痛薬”のひとつです。

痛みのない日常生活!!

